

手段

目的

外国人と日本人が
交流できる場づくり

何のために行うか？

見えない問題に参加者が
気付く・見えるようになる

気付く・見えるようになることで
解決にアプローチできる

参加者はお互いにどう見て
いるかがわかるようになる

価値観の違いによるこだわりが
ほぐれてくる

知らなかったことがわかる
ことで関心を持つようになる

興味を持つことでもっと相手の
ことを知りたくなる

やって終わって何も変わら
ない場ではなく、何かが
変わることを起こす場

ネットワーク化することで、参加
していない人につなぐ、次の
活動が生まれる

聞き流されている声の抽出

- ・家族崩壊を防ぎたい
- ・教育現場との距離を縮めたい
- ・可視化
- ・先生たちの参加をうながす

今後、外国人が増えるにつれて
積極的に交流したいと思わない
日本人との溝が顕在化するかも。
これをポジティブなものに転化
させる交流により問題を予防する

・多文化共生に反対の声がある

⇒ 考えを聞いて包摂を目指す

・小学生の交流の場で外国の話を
したら、いきいきと質問が出た。

⇒ 相手に関心・興味を持つ交流

・留学生と日本人はお互いにだまされると
いう疑念がある

⇒ 「だまされる」を思わない交流

・交流を求めても学校は一線を画す。
学校の様子が見えない。子どもの
話と先生の話が違う。
外国人の親は日本の教育のことを
知らない。

⇒ 歩み寄る交流

・外国人のことについて声をあげても
聞き流される

⇒ 声をすくいあげる交流

どういう交流の場を作るか？

日本語がわかる外国人・日本に長く
住んでいる外国人が参加すること
(地域の問題、子どもの問題を知っている)

教委、学校の校長・先生に参加してほしい
市役所の人に参加してほしい
⇒ 悩み・困っていることが見えてほしい

留学生、大学生にも声をかける



楽しいイベント

・各国(日本含む)の歌、ダンス、食事

悩み相談

太鼓・書道等の文化

教育・学校について交流

⇒ 2/17中までに各自提案をする

人集めの方法は？

国際課への協力依頼

留学生へ依頼

教会・モスク

外国人コミュニティの協会など

学校

⇒ 2/17中までに各自提案をする